

# 第11回 ロボット大賞 事業報告書

---

令和7年3月3日

【共催】経済産業省(幹事)、(一社)日本機械工業連合会(幹事)  
総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省



本事業は競輪の補助により  
運営されています。

# 「第11回 ロボット大賞」概要



## 【名称】

日本名: 第11回 ロボット大賞  
英語名: The 11th Robot Award

## 【共催】

経済産業省(幹事)、日本機械工業連合会(幹事)  
総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

## 【協力】

独立行政法人中小企業基盤整備機構、国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所、国立研究開発法人水産研究・教育機構、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、公益社団法人精密工学会、公益社団法人日本食品科学工学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本べんとう振興協会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、公益財団法人テクノエイド協会、公益財団法人医療機器センター、一般社団法人i-RooBO Network Forum、一般社団法人映像情報メディア学会、一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人日本医療機器産業連合会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建設機械施工協会、一般社団法人日本義肢装具学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建設機械工業会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人日本コンピュータ外科学会、一般社団法人日本産業車両協会、一般社団法人日本食品機械工業会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本農業機械化協会、一般社団法人日本農業機械工業会、一般社団法人日本包装機械工業会、一般社団法人日本UAS産業振興協議会、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人日本ロボット外科学会、一般社団法人日本ロボット工業会、一般社団法人日本ロボットシステムインテグレーション協会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人林業機械化協会、一般社団法人日本生活支援工学会、一般社団法人日本計量機器工業連合会、一般社団法人日本工作機械工業会、一般社団法人日本産業機械工業会、一般社団法人日本自動車工業会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人日本電気制御機器工業会、一般社団法人日本食品工学会、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本物流システム機器協会、一般財団法人橋梁調査会、一般財団法人先端建設技術センター、社会福祉法人全国社会福祉協議会、特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構、一般社団法人農業食料工学会、ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会、サービス学会、サービス産業生産性協議会、特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合、日本介護用入浴機器工業会(67団体。順不同)

## 【目的】

情報技術、エレクトロニクス、機械工学、素材技術など我が国産業の強みと言える幅広い要素技術を統合することによって生み出される次世代のロボット技術(RT)は、我が国に科学技術の更なる発展をもたらすとともに、ものづくり分野はもとより、サービス分野、ICT利活用分野、介護・医療・健康分野、社会インフラ・災害対応・消防分野、農林水産業・食品産業分野などの幅広い分野における利活用が進むことにより、生産性の飛躍的向上、単純な繰り返し作業や過重な労働等からの解放、急速な少子高齢化が引き起こす労働力不足の解消や、安全・安心な社会の実現に貢献すると期待される。

このため、将来の市場創出への貢献度や期待度が高いと考えられるロボット及びロボットに関連するビジネス・社会実装、ロボット応用システム、要素技術、高度ICT基盤技術、研究開発、人材育成(以下、「ロボット等」という。)を表彰することにより、ロボット技術の開発と事業化を促進し、技術革新と用途拡大を加速する、社会に役立つロボットに対する国民の認知度を高め、ロボットの需要を喚起するとともに、全国から広く募ることで我が国のロボット技術の動向を把握することを目的とする。



## 「第11回 ロボット大賞」募集対象/部門・分野

### 【募集対象】

おおむね3年以内に日本国内で活躍した又は取り組まれたすべてのロボット等のうち、以下の各部門及び分野に属し、かつ有識者で構成される審査を目的とした委員会において当該ロボット等を十分に審査する機会を与え得るものを募集対象とする。

ただし、中小システムインテグレーターによるロボットを中核としたシステム構築例は、おおむね5年以内に運用されたものとする。

なお、本制度においては、「ロボット」を「センサ、知能・制御系、駆動系の3つの技術要素を有する、知能化した機械システム」と広く定義するが、本表彰事業の募集対象はロボット本体に限らず、ロボットに関連するビジネス・社会実装、ロボット応用システム、要素技術、高度ICT基盤技術、研究開発及び人材育成の各部門(ロボット等)とする。

### 【募集部門】

#### (A) ビジネス・社会実装部門

ロボットに関連するビジネスモデル又は各分野における社会実装に向けた取組

#### (B) ロボット応用システム部門

実用に供しているロボット技術を応用したシステム又はシステムインテグレーション

#### (C) ロボット部門

実用に供しているロボット本体

#### (D) 要素技術部門

ロボットの一部を構成する部品、材料、その他のロボットの要素技術

#### (E) 高度ICT基盤技術部門

ロボット利活用を支える情報通信および情報処理などの高度ICT基盤技術(IoT、AI、5Gなどを含む)

#### (F) 研究開発部門

ロボットに関連する特に将来性のある研究開発の成果

#### (G) 人材育成部門

ロボット分野における人材を育成するための取組又は教材等

### 【募集分野】

#### (1) ものづくり分野

機械、部品、素材など製品となる物品を製造するのに係る分野

#### (2) サービス分野

公共施設・工場・事務所・店舗・家庭などで警備、掃除、配膳などのサービスを提供するのに係る分野

#### (3) ICT利活用分野

ロボット利活用が関わる地域課題解決やICT利活用に係る分野

#### (4) 介護・医療・健康分野

介護、医療、障害福祉、健康などにおけるロボットの利活用推進に係る分野

#### (5) 社会インフラ・災害対応・消防分野

社会インフラの建設・メンテナンス、災害現場の調査・応急復旧、消防などに係る分野

#### (6) 農林水産業・食品産業分野

農林水産業、食品産業分野における生産性向上、省力化などに係る分野

### ※中小企業・ベンチャーの定義

中小企業基本法第2条第1項の規定に基づく中小企業者(下記 i ~ iv を参照)をいう。ただし、大企業の子会社等(発行株式総数若しくは出資金額の1/2以上が同一の大企業、又は、発行株式総数若しくは出資金額の2/3以上が複数の大企業の所有に属している法人)は含まない。

i. 製造業・建設業・運輸業その他の業種:「資本金3億円以下」又は「常時雇用する従業員300人以下」

ii. 卸売業:「資本金1億円以下」又は「常時雇用する従業員100人以下」

iii. サービス業:「資本金5000万円以下」又は「常時雇用する従業員100人以下」

iv. 小売業:「資本金5000万円以下」又は「常時雇用する従業員50人以下」



## 「第11回 ロボット大賞」表彰位

### 【表彰位/審査の観点】

#### ●大臣賞

- ・経済産業大臣賞  
(全部門、全分野を授賞対象とします)
- ・総務大臣賞  
(主に、高度ICT基盤技術部門、ICT利活用分野および消防分野を授賞対象とします)
- ・文部科学大臣賞  
(主に、研究開発部門、人材育成部門を授賞対象とします)
- ・厚生労働大臣賞  
(主に、介護・医療・健康分野を授賞対象とします)
- ・農林水産大臣賞  
(主に、農林水産業・食品産業分野を授賞対象とします)
- ・国土交通大臣賞  
(主に、社会インフラ・災害対応分野を授賞対象とします)

(注)

厚生労働大臣賞は以下に該当する医療機器には授与されませんのでご注意ください。

- イ 薬事承認・認証を受けていない機器
- ロ 保険収載を希望する機器で、当該手続が済んでいない機器
- ハ 医療現場での利用実績が一定期間を経過していない機器

#### ●中小企業庁長官賞(中小・ベンチャー企業賞)

中小企業及びベンチャーからの応募のうち特に優秀であると認められるロボット等に対して中小企業庁長官賞を授与する。(全部門、全分野を授賞対象とします)

#### ●日本機械工業連合会会長賞

ロボット産業の振興において特に優れたロボット等に対して日本機械工業連合会会長賞を授与する。(全部門、全分野を授賞対象とします)

#### ●優秀賞(○○部門)、優秀賞(△△分野)

各部門・各分野において特に優秀であると認められるロボット等に対して優秀賞を授与する。(全部門、全分野を授賞対象とします)

#### ●審査員特別賞

上記の他に、表彰に値するロボット等に審査員特別賞を授与することができる。(全部門、全分野を授賞対象とします)

。



## 「第11回 ロボット大賞」審査の観点

### 【審査の観点(大臣賞)】

#### ◆経済産業大臣賞の審査の観点◆

経済産業省で実施する政策上の観点を鑑み、次に掲げる事項のいずれかに該当することを基本的な方針として、応募のあった案件のうち優秀かつ経済産業大臣賞を授与することが適当であると認められるもの。

イ 直接的・間接的を問わず、我が国のロボット産業の振興において特に貢献をしたもの又は貢献が期待されるものであり、その功績や社会的・経済的価値、実現に至るまでの取組等が広く認識されることで、より一層のロボット利活用の推進に寄与すると認められる。

ロ ロボット応用システムのうち、高度な技術的課題に挑戦するとともにロボット活用による効果が顕著であり、ロボットを用いた機械システム又はそのインテグレーションのモデルとして広く認識されることで、我が国におけるシステムインテグレータの育成・強化に寄与すると認められる。

ハ ビジネス・社会実装のうち、日常の生活空間や経済活動においてロボットを用いてサービスを提供した実績があるとともに、その取組を通じてロボットが持つ社会的な価値・効果が明確化されており広く認識されることで、我が国におけるロボットの社会実装の加速化に寄与すると認められる。

#### ◆総務大臣賞の審査の観点◆

総務省で実施する政策上の観点を鑑み、次に掲げる事項を基本的な方針として、応募のあった案件のうち優秀かつ総務大臣賞を授与することが適当であると認められるもの。

イ ロボット利活用を加速させる通信ネットワークやコミュニケーション機能等の高度ICT基盤技術の研究・開発に特に寄与すると認められる。

ロ ICT利活用の普及・発達、ICT産業の健全な発展及び地域社会を取り巻く様々な課題の解決に特に寄与すると認められる。

ハ 消防防災に特に寄与すると認められる。

#### ◆文部科学大臣賞の審査の観点◆

文部科学省で実施する政策上の観点を鑑み、次に掲げる事項のいずれかに該当することを基本的な方針として、応募のあった案件のうち優秀かつ文部科学大臣賞を授与することが適当であると認められるもの。

イ 科学技術に関する研究開発を効果的かつ効率的に行うためのロボット技術であり、全ての研究従事者を実験に必要な事務作業(ベンチワーク)から解放し、知性と独創性に関わる作業に集中させるなど、研究生産性を飛躍的に向上させ、研究開発現場の構造を一変させることが期待できると認められる。

ロ 研究開発部門のうち、ロボットに関連する特に将来性のある研究開発の取組として、ロボット革命を牽引しフロンティアを切り開くような様々な新しいロボット技術の研究を推進する活動(ピッチコンテストやアワード方式(チャレンジプログラム)の開催等を含む)を行うことで、社会・経済の変革をもたらす、創造的な革新的技術のシーズ創出に寄与すると認められる。



## 「第11回 ロボット大賞」審査の観点(大臣賞)

### 【審査の観点(大臣賞)続き】

ハ 人材育成部門のうち、ロボット分野における人材を育成するための取組として、初等中等教育段階から子供にロボットに関する知識を広く知らしめ、日常的にロボットに親しみ使いこなす方法を習得させることで、ロボットが日常となる社会の実現に寄与すると認められる。

#### ◆厚生労働大臣賞の審査の観点◆

1 厚生労働省で実施する政策上の観点を鑑み、次に掲げる事項のいずれかに該当することを基本的な方針として、応募のあった案件のうち優秀かつ厚生労働大臣賞を授与することが適当であると認められるもの。

- 一 医療・介護・障害福祉・健康分野等におけるロボット利活用の推進に寄与すると認められる。
- 二 次の政策課題のいずれかの解決に特に寄与すると認められる。
  - イ 医療現場におけるニーズと技術シーズとのマッチングによる製品開発促進
  - ロ 高齢者の生活の質の維持・向上と、介護者の負担軽減の実現
  - ハ 障害者の自立支援

2 ただし、次に掲げる機器に該当する医療機器は対象から除く。

- 一 薬事承認・認証を受けていない機器
- 二 保険収載を希望する機器で、当該手続が済んでいない機器
- 三 医療現場での利用実績が一定期間を経過していない機器

#### ◆農林水産大臣賞の審査の観点◆

農林水産省で実施する政策上の観点を鑑み、次に掲げる事項のいずれかに該当することを基本的な方針として、応募のあった案件のうち優秀かつ農林水産大臣賞を授与することが適当であると認められるもの。

イ 直接的・間接的を問わず、我が国の農林水産業・食品産業分野における生産性の向上または労働力不足の解消、農林漁業者の軽労化や安全性の向上等に特に貢献をしたもの又は貢献が期待されるものであり、その功績や社会的・経済的価値、実現に至るまでの取組等が広く認識されることで、より一層のロボット利活用の推進に寄与すると認められる。

ロ 研究開発のうち、農林漁業・食品産業分野のニーズを踏まえた明確な開発目標の下で、現場への確実な実装を視野に入れた研究であり、高度な技術的課題に挑戦するとともにロボット活用による効果が顕著であるもので、その取組が広く認識されることで、我が国における研究の加速化に寄与すると認められる。

ハ ビジネス・社会実装、ロボット応用システムのうち、実際の農林水産業・食品産業の現場においてロボットが活用された実績があるとともに、その活用の取組を通じてロボットが持つ効果が明確化されており、広く認識されることで、農林水産業・食品産業分野におけるロボットの社会実装の加速化に寄与すると認められる。

#### ◆国土交通大臣賞の審査の観点◆

国土交通省で実施する政策上の観点を鑑み、次に掲げる事項を基本的な方針として、応募のあった案件のうち優秀かつ国土交通大臣賞を授与することが適当であると認められるもの。

イ 人が近づくことが困難な災害現場の調査や応急復旧等の災害対応を迅速かつ的確に実施するため、災害発生後又は発生前に活用されるものも含めて、特に寄与すると認められるもの。

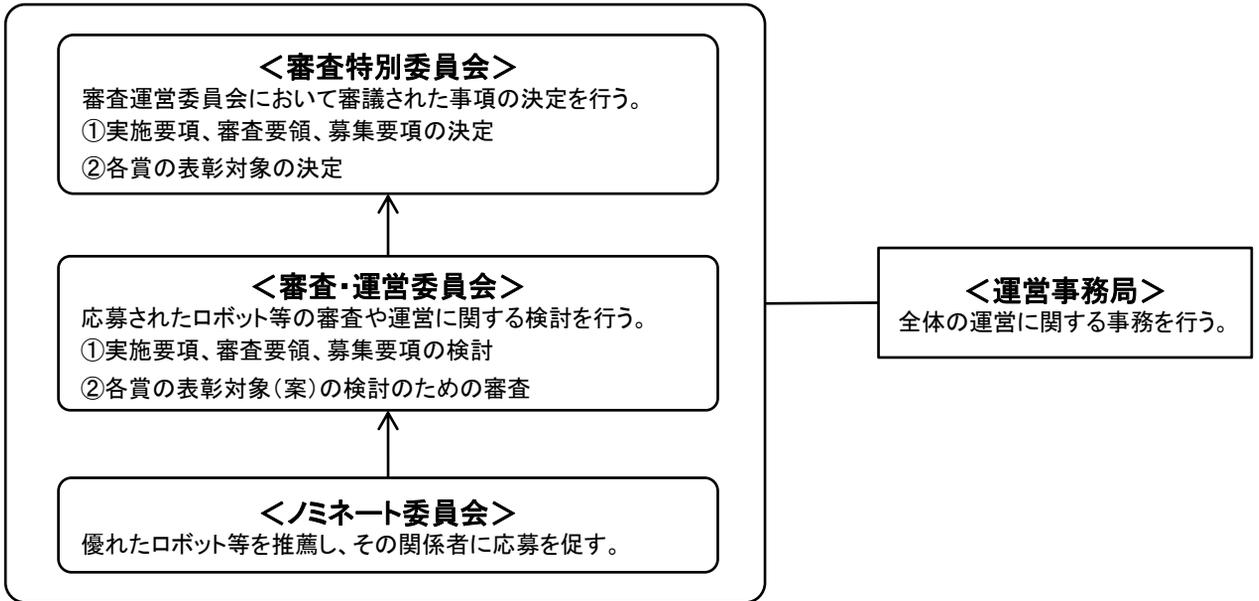
ロ 急増するインフラのメンテナンス需要に対応するためにロボットでの支援を推進する上で、特に寄与すると認められるもの。

ハ 建設分野において、前工程・後工程を含む全体工程をシステムとしてとらえた生産性向上・省力化・作業員負荷軽減を推進するために、特に寄与すると認められるもの。



# 「第11回 ロボット大賞」審査要領

## 【委員会】



### ① 審査手順

第11回ロボット大賞に応募のあったロボット及びロボットに関連するビジネス・社会実装、ロボット応用システム、要素技術、高度ICT基盤技術、研究開発、人材育成(以下「ロボット等」という。)について、一次審査として審査運営委員会による書類審査を行い、授賞候補として二次審査に進めるべきものを選出する。二次審査では、授賞候補となったロボット等について、現地調査を行うとともにプレゼンテーションを行ってもらい、それらの内容を踏まえ、各賞の授賞対象とするロボット等を審査・運営委員会が提案し、審査特別委員会がそれを決定する。

### ② 一次審査

第11回ロボット大賞に応募のあったロボット等について、応募書類の内容をもとに、1つのロボット等につき4名以上の審査委員が、各自で「採点」を行う。このとき、審査委員は特定の分野を担当する委員に加え、必要に応しい特定の部門や、特定の部門と分野の組合せを担当する委員もいることとし、全体として均等となるよう審査委員を振り分けるものとする。採点の結果は、「採点シート」に記入する。その後、「(3) 審査・運営委員会」を開催し、各審査委員の採点の結果等をもとに、授賞候補として二次審査に進めるべきものを選出する。なお、事業の目的に明らかに合致していない応募案件については審査・運営委員長の判断により審査の対象から外すことができる。

#### (1) 採点

「採点」は、1)に掲げる部門毎の観点について、2)に掲げる基準に基づき行う。

##### 1) 観点

(A) ビジネス・社会実装部門

##### ① 社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボットの活用による、新たなビジネスやサービスの創出、生産性の向上や労働環境の改善等の社会的課題への対応、新たなビジネスモデルやそのアイデア等によるマーケットやニーズの発掘等の、社会的ニーズの観点から評価する。



## 「第11回 ロボット大賞」審査要領

### 1) 観点(続き)

#### ②先進性・独自性

それぞれの分野におけるロボットの活用、ロボットに関連するビジネスとしての新規性や、活用されるロボットやそのシステムインテグレーションの技術的な先進性・独自性等の観点から評価する。

#### ③ユーザー視点

それぞれの分野におけるロボットの活用によって、その利用者が受ける利益や効用等の、ユーザーとしての視点から評価する。

#### ④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

### (B) ロボット応用システム部門

#### ①社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボット応用システムのメリット及びニーズの大きさ、これまでの導入・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

#### ②先進性・独自性

ロボットの機能や性能(速さ、精度、安全性、動作安定性、動作環境の汎用性や操作性等)又はそれらを実現する技術の、先進性や独自性の観点から評価する。

#### ③ユーザー視点

ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)、共通規格への対応、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての視点から評価する。

#### ④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

### (C) ロボット部門

#### ①社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボット活用のメリット及びニーズの大きさ、これまでの導入・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

#### ②先進性・独自性

ロボットの機能や性能(速さ、精度、安全性、動作安定性、動作環境の汎用性や操作性等)又はそれらを実現する技術の、先進性や独自性の観点から評価する。

#### ③ユーザー視点

ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)、共通規格への対応、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての視点から評価する。

#### ④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。



## 「第11回 ロボット大賞」審査要領

### 1) 観点(続き)

#### (D) 要素技術部門

##### ① 社会的ニーズ

それぞれの分野において活用されるロボットへの実装のメリット及びニーズの大きさ、これまでの実装・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

##### ② 先進性・独自性

ロボットの機能や性能(ロボットの速さ、精度、安全性、動作安定性、動作環境の汎用性や操作性等)を実現する要素技術としての先進性や独自性の観点から評価する。

##### ③ ユーザー視点

ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)等の向上への寄与や、ロボットに実装するときの容易性や共通規格への対応等の、ユーザーとしての視点から評価する。

##### ④ その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績等)を評価する。

#### (E) 高度ICT基盤技術部門

##### ① 社会的ニーズ

それぞれの分野において活用されるロボット・ロボット応用システム等に実装される情報処理技術・情報通信技術であり、実装のメリット及びニーズの大きさ、これまでの実装・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

##### ② 先進性・独自性

ロボット・ロボット応用システム等に実装され、その機能や性能を実現する高度ICT基盤技術としての先進性や独自性の観点から評価する。

##### ③ ユーザー視点

高度ICT基盤技術の実用性、利便性、経済性(導入・維持コスト等)、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての視点から評価する。

##### ④ その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。



## 「第11回 ロボット大賞」審査要領

### 1) 観点(続き)

#### (F) 研究開発部門

##### ①社会的ニーズ

研究開発の成果が、ロボットやその要素技術として実用化されることによる、それぞれの分野における新たなビジネスやサービスの創出、生産性の向上や労働環境の改善等の社会的課題への対応、将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

##### ②先進性・独自性

研究開発の成果としての先進性、独自性の観点から評価する。

##### ③ユーザー視点

研究開発の成果として、ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)等の向上への寄与や、要素技術としてロボットに実装するときの容易性や共通規格への対応等への寄与等の、ユーザーとしての視点から評価する。

##### ④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

#### (G) 人材育成部門

##### ①社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボットの活用や、ロボットに関連する新たなビジネスやサービスの創出、ロボットやその要素技術の研究開発を担う人材等のロボット分野において活躍する人材の育成への貢献の観点から評価する。

##### ②先進性・独自性

人材育成の方法としての先進性、独自性の観点から評価する。

##### ③ユーザー視点

ロボット分野において活躍したい人材にとって、必要な知識や経験、技能等を効果的かつ効率的に習得できるしくみとなっているか等の、ユーザーとしての視点から評価する。

##### ④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。



# 「第11回 ロボット大賞」審査要領

2) 基準(配点の目安、なお各項目では5点(5倍後25点)を上限とする)

格段に優れている	5点	× 5
相当に優れている	4点	
優れている	3点	
良いところが少ない	2点	
特に評価すべきものがない	1点	

「3. 5点」など中間点も可とする。

## (2) 採点シート

応募名	部門等	採点				合計
		① 社会的ニーズ	② 先進性・独自性	③ ユーザー視点	④ その他	
例1	A	20	10	15	15	60
例2	B	15	25	25	25	90
例3	C	5	20	15	15	55

なお、個々の審査委員による極端な評価点の隔たりが出るのを防止するため、採点(合計点)を平均点と標準偏差により算出される偏差値に置き換えて合計点とする。

偏差値 = ((評価点 - 当該審査委員の平均点) / 当該審査委員の標準偏差) × 10 + 50

## (3) 審査・運営委員会

各審査委員の採点・評価の結果について事務局が集計を行い、その集計結果をもとに審査・運営委員会を開催する。審査・運営委員会として、採点の結果を総合的に勘案して審査を行い、表彰候補として二次審査に進めるべきものを、全体で30件程度を上限として選出する。



## 「第11回 ロボット大賞」審査要領

### ③二次審査

一次審査を通過したロボット等について、「(1)現地調査」を行うとともに「(2)プレゼンテーション」を行ってもらい、それらの内容を踏まえ、「(3)審査・運営委員会」として提案する各賞の授賞対象とすべきロボット等を選考する。

#### (1)現地調査

一次審査を通過したロボット等について、1件につき2名以上の委員が、ロボットが活用されている現場や研究開発の現場等に赴き調査を行う。特に適当な現場等がない場合は、ヒアリング調査を行うこととする。現地調査の後、各委員は、その報告書を作成し審査・運営委員会に提出する。

現地調査の結果、表彰対象になり得ないと判断されたものについては、授賞候補から除外することとし、プレゼンテーションは不要とするが、その最終決裁は審査・運営委員長及び副委員長が行う。

#### (2)プレゼンテーション

審査・運営委員会の場において、各ロボット等の応募者等がプレゼンテーションを行ってもらう。

#### (3)審査・運営委員会

応募書類、現地調査及びプレゼンテーションの内容等を総合的に勘案し、審査・運営委員会として審査特別委員会に対し提案する各賞の授賞対象とすべきロボット等を選考する。その選考は、3ページ「表彰位／審査の観点」に基づき行う。

なお、ひとつのロボット等が複数の大臣賞の授賞候補となった場合には、ノミネートの経緯等を踏まえつつ、当該ロボット等について個別の調整を行うこととする。

過去に受賞したものの再応募があった場合は、前回受賞からの進展分を審査の対象とする。

### ④審査特別委員会

審査・運営委員会からの提案を受け、各賞の授賞対象とするロボット等を決定する。



## 「第11回 ロボット大賞」概要

【募集方法】「第11回 ロボット大賞」公式ホームページにて応募エントリー後、応募用紙をダウンロードして必要事項を記入。応募用紙と動作確認用の映像資料を郵送。

【募集期間】 2024年2月19日(月)～4月12日(金)

【応募数】 総数85件(前回112件)

### 【分野一部門毎の応募件数】

	ものづくり分野	サービス分野	ICT利活用分野	介護・医療分野	インフラ・災害対応・建設分野	農林水産業・食品産業分野	計
ロボットビジネス・社会実装部門	2	7	0	2	8	5	24
ロボット応用システム部門	6	2	0	2	1	2	13
ロボット部門	7	9	3	4	3	5	31
要素技術部門	2	0	0	0	2	0	4
高度ICT基盤技術部門	0	0	0	1	1	0	2
研究開発部門	1	1	0	1	3	1	7
人材育成部門	4	0	0	0	0	0	4
	22	19	3	10	18	13	85



## 委員会および運営報告

### ■ 第1回審査特別委員会

2月7日(水) 15:00~18:00

内容: 募集要項・実施要項等決定

### ■ ノミネート委員会

3月1日(金) 14:00~16:00

内容: 推薦候補の検討

- 書類審査(審査・運営委員にて審査)・・・4月22日(月)~5月13日(月)

### ■ 第1回審査・運営委員会

5月27日(月)14:00~18:30 場所: 機械振興会館

内容: 委員各位による「採点」の結果について(事務局から報告)、現地調査候補選考・決定、現地調査の担当決定、今後のスケジュールについて

- 現地調査(審査・運営委員にてヒアリング調査)

6月10日(木)~7月17日(金) 32件(うち22件がプレゼン審査に進出)

### ■ 第2回審査・運営委員会

7月23日(火) 10:00~19:00 場所: 機械振興会館

内容: 応募者によるプレゼンテーション及び表彰位案の選定

### ■ 第2回審査特別委員会

8月1日(木) 10:00~12:00

内容: 表彰位の決定

- プレスリリース(受賞位の発表) 9月11日(水)

《表彰式および合同展示 場所: 東京ビッグサイト 西ホール》

◆ 表彰式 9月18日(水) 10:30~12:00

◆ 受賞ロボット展示 9月18日(水)~20日(金)の3日間

### ■ 第3回審査・運営委員会

2025年3月3日(月)

内容: 事業総括および来年度の検討



第1回審査・運営委員会



委員による現地審査



委員による現地審査



第2回審査・運営委員会



# 受賞ロボット概要

<p>経済産業大臣賞</p>	<p><b>世界初の本格加工ロボット M-800 ※名称変更予定</b>  <b>【ファナック株式会社】</b></p>
	<p>【概要】  従来の加工機では困難だった高精度な加工を実現する高精度6軸多関節ロボット。60kgの可搬重量を持ち、最大270kgfの加工反力に耐える高剛性アームを搭載し、高い軌跡精度を実現。高精度キャリブレーション技術により、加工誤差やアームの撓みを補正し、±0.1mm以下の絶対精度を達成加工反力を受けても高い精度を維持し、レーザー切断やウォータージェット加工が可能。小さい設置面積で広い動作範囲を持ち、様々な方向からの加工ができるため、経済的かつコンパクトな設備を提供する。自動車や航空機の部品加工に適用が進んでおり、厳しい環境下でも長期間の安定稼働を実現している。</p> <p>【評価のポイント】  世界でもトップクラスの技術で実現された高剛性、極めて高い絶対位置精度、大きな加工反力を受けながら高い精度での動作が可能という特徴を有し、これまでのロボットでは不可能であった、様々な板金加工を可能としている。その性能と恩恵は徐々に認められつつあり、自動車産業、航空機産業等での利用が始まっている。その省スペース効果、低コスト化は絶大であり、今後益々の利用が見込まれると共に、本ロボットで導入された技術の横展開も大いに期待でき、評価は高い。</p>
<p>総務大臣賞</p>	<p><b>カチャカ</b>  <b>【株式会社Preferred Robotics】</b></p>
	<p>【概要】  自律移動機能を備えた搬送ロボットシステム。家具とドッキングし、自在に物品を移動できるプラットフォームとして設計されている。小型ながら、高度なナビゲーション、自己位置推定、音声認識能力を実装し、スマートフォンやクラウドで操作可能。家庭内では、配膳、子どもの身支度、ゴミ捨てなどを自動化し、業務用ではクリニックや工場での効率化を実現。2018年のCEATECで発表された「全自動お片付けロボットシステム」が原点であり、設計変更を重ね、低価格で高性能を実現した。家庭内外での革新性が評価され、国内外での販売が進んでいる。</p> <p>【評価のポイント】  自社の強みを活かす戦略的アプローチをとった製品開発とマーケット開拓を巧みにしており、創業してまだ2年弱でありながら実績もあがってきている。明確にロボットと呼べる製品事業で技術力もしっかりしているだけではなく、製品や事業戦略にフィットしたターゲット市場を発掘できており、こうした評価を裏付けるようにそれぞれの規模の資金調達にも成功。AI機能の組込み等、ソフトウェアおよびそのインテグレーションに関しても高い技術を有しており、高度ICT基盤技術との連携、ICT利活用という観点からも評価できる。</p>
<p>文部科学大臣賞</p>	<p><b>超小型月面探査ローバLEV-1&amp;LEV-2</b>  <b>【国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）/中央大学/国立大学法人東京農工大/同志社大学/株式会社タカラトミー/ソニーグループ株式会社】</b></p>
	<p>【概要】  日本初の月着陸機SLIMに搭載された超小型月面探査ローバ（LEV）が、月面で連携してミッションを遂行した。LEVシステムはLEV-Mと2台のローバ（LEV-1とLEV-2）で構成され、2024年1月、SLIM探査機の着陸直前にLEV-1とLEV-2が独立して月面に展開された。LEV-1は単一の車輪で方位制御や跳躍移動を行い、環境状態の観測を実施。LEV-2はSLIM探査機を発見し、その画像を撮影してLEV-1に送信しながら周囲を走査した。LEV-1はデータを地球へ直接送信する能力を持ち、LEV-1は世界初の跳躍移動型ロボット、LEV-2は世界最小・最軽量（質量228g）の月面探査ロボットとして、完全自律でのロボット間通信を実証した。</p> <p>【評価のポイント】  人類の活動領域拡大に向け、月惑星探査のニーズが高まっているなかで、今回の月面探査ミッションでは、月面での自律変形・移動（跳躍）、LEV-1などの自律撮影・地球への画像送信が達成された。また、今後、宇宙開発、月惑星探査は、官主導から民間へ移行することが期待されるなかで、小型化・コストダウンを実現した。これらの成果は、今後の月面探査につながる成果であるとともに、今後の宇宙開発や惑星科学に大きなインパクトを与えるものである。</p>
<p>農林水産大臣賞</p>	<p><b>水田に浮かべる自動抑草ロボット「アイガモロボ」</b>  <b>【株式会社NEWGREEN】</b></p>
	<p>【概要】  化石燃料や化学農薬、人手を使わずに自動運転する農業用自動抑草ロボット。2023年度には限定500台が井関農機に販売された。農研機構との実証実験では、収量が1割増加し、除草工数が6割削減された。G7農業大臣会合で展示され、中国やカナダでの実証実験が開始されるなど、国内外から注目を集めている。2033年までに累計2万6千台の販売を計画している。</p> <p>【評価のポイント】  世界初の水田抑草ロボットを実用化した。年間500台の販売実績があり、全国広範囲に稼働実績がある。国内の販売と同時に、ベトナム、中国、カナダ、フィリピン、韓国などからも実証実験の要望があり、現在各国で実証試験を開始。さらに改良を加えた安価版もすでに開発済で来年発売予定で、その先進性が高く評価できる。また、ロボットの販売と同時に、生産された有機米を買い取るというビジネスモデルも展開し、実績を出している。</p>

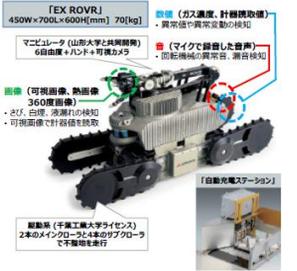


# 受賞ロボット概要

<p style="text-align: center;"><b>国土交通大臣賞</b></p>	<p><b>鉄筋結束ロボット「トモロボ」</b> 【建ロボテック株式会社】</p>
	<p>【概要】 建設生産での主要部材となっている“鉄筋コンクリート”の中で補強材として格子状に並べられている鉄筋の交点を針金で繋ぎ固定する作業を人の代わりに行う人協働ロボット。鉄筋結束作業は、結束数が非常に多く（一人あたり6000～8500箇所）、腰を曲げた状態で長時間作業を行う必要がある過酷作業だが、市販の手持ち電動工具をセットするだけで、鉄筋工事における単純作業である結束作業を自動化が可能となる。</p> <p>【評価のポイント】 簡単な機構で、軽量かつ安価で効率よく、自動的に移動しながら鉄筋を効率的に結束することができる。ユーザーにとって非常に使いやすい鉄筋結束ロボット。技術的工夫については国内外の特許も取得し、販売・レンタルの事業で、多くの現場での導入実績もある。鉄筋結束作業における身体的な負荷の軽減に貢献し、労働力不足に対応可能なロボットであるという点で、社会的なインパクトは大きい</p>
<p style="text-align: center;"><b>中小企業庁長官賞</b> (中小・ベンチャー企業賞)</p>	<p><b>KUMADE-FORK (ECシリーズ)</b> 【株式会社ハーモテック】</p>
	<p>【概要】 ベルヌイ方式やエジェクターを複合的に利用し、広範囲に負圧を発生させることで、脆弱な極薄ウエハを優しく搬送する技術。特にパワーデバイス製造分野で高く評価され、大手企業にも採用されている。 新型ECシリーズは、ウエハの反りや傷みを考慮して非接触搬送が可能。カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現に向けて、次世代パワー半導体の製造に対応し、消耗部品がなくランニングコストがからない。さらに、半導体産業以外の分野への応用も視野に入れている。食品業界などでも、脆弱な製品の傷つけない搬送が実証されており、今後の自動化分野での利用が期待される。</p> <p>【評価のポイント】 これまで搬送が難しかった薄く大型のウエハを、接触せずに吸引固定し、さらに裏返すことができる技術は他に例を見ない技術。国の流通特許事業で、使われていなかった特許を引き受け、実用化した。半導体製造は、AI等の半導体チップのニーズから今後の市場拡大が期待が大きい。応募者独自の技術であり、また、産業分野としても今後に大きく波及効果の高い技術である。</p>
<p style="text-align: center;"><b>日本機械工業連合会会長賞</b></p>	<p><b>つくばチャレンジ</b> 【つくばチャレンジ実行委員会】</p>
	<p>【概要】 2007年から毎年開催される移動ロボットの自律走行技術を実環境で試す公開実験。つくば市内のコースを設定し、距離や課題を年々ブラッシュアップし、2013年から探索対象の発見、2018年からは前日に通知されるチェックポイント通過、2023年からは荷物配送の課題も加わった。大学や企業などから多くのチームが参加し、市街地での自律走行技術の向上に寄与している。一般市民の理解を深めるための活動も行われ、技術の進展とともに社会的意義が評価されている。</p> <p>【評価のポイント】 公開実験の場を提供することで、先端技術の実装と検証が繰り返され、参加者の技術は年々向上し、その過程で、実環境における自律走行技術全体の発展に大きく貢献している。また、参加者の増加が、参加費収入と広告効果によるスポンサー収入の増収につながり、持続可能な運営体制を実現した。ビジネス・社会実装、人材育成双方の取り組み、市民へのロボット技術啓発という観点から評価は高い。</p>
<p style="text-align: center;"><b>日本機械工業連合会会長賞</b></p>	<p><b>自律走行搬送ロボット「ラピュタPA-AMR」</b> 【ラピュタロボティクス株式会社】</p>
	<p>【概要】 物流倉庫でのピッキング作業を支援する協働型ピッキングアシストロボット。人が商品を棚からピッキングし、ロボットが次の作業ポイントに移動することで、作業効率を向上させる。スタッフ一人当たり2～3台のロボットが協働し、倉庫管理システム（WMS）と連携したクラウドロボティクスプラットフォーム（rapyuta.io）により最適なピッキングルートを自動算出する。ロボットの群制御機能により、多種多様なロボットの連携が可能である。また、現場での安全性も高く、導入コストも抑えられる。物流業界における人材不足や作業効率の課題解決に貢献している。</p> <p>【評価のポイント】 完全自動化ではなく、商品の運搬は移動ロボットが行い、ピッキングは近くにいる人が行うことで、人間共存で作業の効率化を低コストに実現するシステムを構築する提案は、顧客のニーズにマッチしたシステムである。米国の競合企業に対して日本の狭い倉庫の通路での細やかな動きを実現している点、また、自社でロボット本体の製造から全体の動作管理システムの構築まで行っている点で、技術的な優位性を持っている。動作データの収集分析結果から、ユーザー企業への改善提案をして作業効率向上に貢献しているなど、ICT利活用分野の優れた事例である。</p>



# 受賞ロボット概要

<p><b>優秀賞</b> (介護・医療・健康分野)</p>	<p><b>スマーター・インクルーシブ・ダンス</b> 【東北大学/国立長寿医療研究センター/パラマウントベッド株式会社/株式会社shiori】</p>
	<p>【概要】 車いす利用者と健常者が共にダンスを楽しむためのプロジェクト。技術面ではユーザーの体に装着した部位の傾きを検知する慣性センサや装着型モーションキャプチャシステムと、それらと介護ロボットをつなぐネットワークシステムが特徴。ユーザは体でロボットを動かすことができるため、ジョイスティックなどの操作デバイスを動かす必要がなくなり、両手を使ったより表現力豊かなダンスを踊ることができるようになる。</p> <p>【評価のポイント】 世代や障害の有無を問わず、すべての人々が社会に積極的に参加できる高い包摂性を持つ社会の実現を目指しており、その社会的ニーズは極めて高い。市販の福祉介護機器を活用し、特別なチューニングを必要としないシステムはユーザビリティも高く、多くの人々に利用しやすい点が評価される。特に、VR環境や触覚提示技術を用いた視覚障害者への配慮は先進的であり、ダンスを通じた感情表現や社会参加の促進は、リハビリテーションや認知症予防にも高与する可能性が期待される。</p>
<p><b>優秀賞</b> (社会インフラ・災害対応・消防分野)</p>	<p><b>プラント自動巡回点検防爆ロボット「EX ROVR」(呼称“えくすろーばー”)</b> 【三菱重工業株式会社/ENEOS株式会社/学校法人千葉工業大学/国立大学法人山形大学/国立大学法人東北大学】</p>
 <p>「EX ROVR」 450W×700L×600H[mm] 70[kg]</p> <p>特徴 (ガス濃度、計測機取付) ・異常値や異常変動の検知</p> <p>マニピュレータ (山形大学と共同開発) 6自由度+ハンド+可変カメラ</p> <p>検知 (マイクで録音した音声) ・異常機械の異常音、異常検知</p> <p>可視画像、熱画像 360度画像 ・ガス、白煙、炎検知の検知 ・可視画像で計測機を操作</p> <p>自動充電ステーション</p> <p>駆動系 (千葉工業大学サイエンス) 2本のインローラーと4本のサブローラーで不整地を走行</p>	<p>【概要】 引火性ガスのある危険場所で昼夜問わず自律巡回点検を行うロボット。可視画像、熱画像、ガス濃度、温度、音などの情報を収集し、LTE通信を介してクラウドに格納、AIで異常を検知・通知する。日米欧で防爆認証を取得し、70kgの軽量・コンパクト設計、クローラ駆動による高い走破性、6自由度のマニピュレータを備える。2022年4月に発売し、石油ガス化学業界の人手不足や安全性向上に貢献し、海上プラントの省人化・無人化に期待されている。</p> <p>【評価のポイント】 日本国内唯一の使用可能な防爆移動ロボット。日米欧で法規認証された防爆性能（自らが引火源とならない性能）を持ち、軽量、コンパクト、クローラ駆動系による高い走破性、自由度の高いマニピュレータ、ロボット本体と同じ防爆性能を有する充電ステーションと組み合わせた稼働率の高さを兼ね備えた。また、メインターゲットとする石油ガス化学業界の海上プラントフォーム型石油掘削施設は、省人化・無人化が求められ、今後の発展が期待される。</p>
<p><b>優秀賞</b> (農林水産業・食品産業分野)</p>	<p><b>無人ロボットコンバイン</b> 【株式会社コボタ】</p>
	<p>【概要】 稲や麦の収穫作業を自動で行う業界初のコンバイン。2024年1月に販売開始され、自動運転レベル2に分類される。先進技術と制御技術を駆使し、圃場形状マップの自動作成や走行ルート設定、タンク満杯時の自動排出などの機能を備える。日本農業の高齢化や人手不足に対応し、効率的な農作業を可能にする。この無人ロボットコンバインは、作業効率を高め、農業経営の基盤強化と食料安全保障に貢献する。</p> <p>【評価のポイント】 これまで技術的難度が高いとされてきたロボットコンバインの無人化を実現した。また、作業効率を高めるために人が行っている作業方法を制御技術によって再現し、熟練オペレータ同等の作業効率を実現している。担い手農家が抱えている人手不足や作業効率の改善といった経営課題を解決するとともに、日本の食料安全保障にも貢献できる技術である。また、水田の主要3機種（トラクタ、田植機、コンバイン）の無人ロボットが出揃ったことで、無人ロボット農機による一貫作業体系が可能となり、農業がより効率的で持続可能になることが期待される。</p>
<p><b>優秀賞</b> (ビジネス・社会実装部門)</p>	<p><b>社会インフラサービスを支える業務DXロボットugo (ユーゴー)</b> 【ugo株式会社】</p>
	<p>【概要】 オフィスビルや商業施設の警備用途、メーター点検を行うロボット。「ugo Pro」「ugo Ex」「ugo mini」の3モデルが提供されている。「ugo Pro」は2本のアームと表情豊かな顔ディスプレイを持ち、エレベーター操作によるフロア移動に優れた機能を持つ。「ugo Ex」はカスタマイズ可能で、多様なセンサーやカメラを追加できる。「ugo mini」はコンパクトで機動性が高く、狭い空間での点検作業に適している。また、ロボットアームを活用したエレベーターのボタン操作やAIを用いた障害物チェック機能を備え、安全性と信頼性を高めている。</p> <p>【評価のポイント】 アナログ計器の読み取りなどの機能を備え、既存設備の変更することなく従来の人間の業務を確実に代替している。ハードウェア、ソフトウェア、運用プラットフォームを自社で一貫して開発し、ユーザのニーズに応じたソリューションを提供する点で独自性がある。出荷開始から3年弱で累計出荷台数は200台を超え、2023年にはマーケットシェア1位（54%）を獲得。今後は介護現場や医療施設、通信基地局やデータセンターなどでの活用が期待されており、国内外でのさらなる展開も計画されている。</p>



# 受賞ロボット概要

<p><b>優秀賞</b> (ビジネス・社会実装部門)</p>	<p><b>体をひねって姿勢の自由を提供する、ロボット車椅子「Hineru（ハイネル）」</b> 【株式会社コポリン】</p>
	<p>【概要】 重度身体障害者のために開発された自分で姿勢を変えられない人々のための車椅子。リクライニングやティルト、足台エレベーション機能に加え、体幹のひねりや引き上げ動作を可能にし、「車いすを身体に合わせた」姿勢を実現する。姿勢の記録と再現が簡単に行え、寝たきりの不快を解消する効果が期待される。また、高齢者や半身不随の方にも有効であり、筋力維持や血液循環促進などの身体的効果や、孤独感の低下などの心理的効果が期待されている。</p> <p>【評価のポイント】 ロボット技術を活用することにより、身体のスレを発生させない機構を設けたうえで、側屈、回旋、伸展の姿勢変換を人手に頼らず、自ら操作することができる点に先進性がある。利用者が必要とするタイミングで安楽姿勢に変換し、その状態を保持することができ、身体拘縮の予防をはじめ、呼吸や嚥下のしやすい姿勢をとることも可能となる。これまで介助者に依存していた姿勢変換を利用者は気兼ねなく、さらには就労や就学の場面など、長時間の車いす利用の苦痛も大幅に軽減する。</p>
<p><b>優秀賞</b> (要素技術部門)</p>	<p><b>近接覚センサー TK-01</b> 【株式会社Thinker】</p>
	<p>【概要】 赤外光反射式の小型近接覚センサーで、高速手探り動作を実現するためのセンサーである。このセンサーは、対象物からの反射光量を高速処理し、1.5～20mmの近距離計測および傾き角度の計測が可能である。ロボットの指先に搭載することで、対象物の配置誤差や環境変化に対応でき、透明物体や鏡面物体も高精度に計測できる。また、非接触・接触センサとしての応用も可能で、高速手探り動作により作業効率と精度を向上させる。これにより、特にFA分野や食品産業などでの自動化ニーズに対応できる。</p> <p>【評価のポイント】 カメラを使ってもロボットが苦手な作業（イレギュラー、不定形物、バラ積み）の自動化し、高価で処理が遅い3Dビジョンセンサーを使わず、本近接覚センサーによって安価に実現した。器用で高速のピックングが実現できるという点で優位性があり、他のセンサーや柔軟指などの組み合わせにより、幅広い応用が期待できる。2×2の赤外線発光・受光素子を用い、赤外線反射強度の空間的パターンの特徴量抽出をAI（機械学習）によってハンドリングする対象物の位置・姿勢を計測できる点が最大の強みである。社会的ニーズは明確であり、先進性・独自性・競争力のある技術である。</p>
<p><b>審査員特別賞</b></p>	<p><b>マイクロマウス</b> 【公益財団法人ニューテクノロジー振興財団】</p>
	<p>【概要】 参加者が自作した自立型ロボットを用いて迷路を自律的に探索し、最短時間でゴールに到達する競技。この競技は1977年にIEEE（米国電気電子学会）が提唱し、日本では1980年から「全日本マイクロマウス大会」として毎年開催され、現在は事実上の世界大会となっている。競技には自律操縦の速さを競うロボットレース競技もあり、学生から高度な技術を持つロボットまで多様な参加者が集う。競技を通じて参加者はAIやロボット工学の実践的な技術を磨き、国際的な技術交流や情報交換の場としても機能している。また、技術教育の場として若い世代の育成に貢献する。</p> <p>【評価のポイント】 長期に渡る継続開催のための優れたコンセプトを有し、それが多くの参加者を集めること、参加者が競技を通して総合的なエンジニアリングスキルを身につけることにつながっている。大会としても十分な実績を有し、コミュニティ形成等の観点からも評価できる。学生でマイクロマウスに興味を持った方々が、社会でエンジニアとなり活躍されている例は数多く、人材育成という観点で評価する。</p>



## 「第11回 ロボット大賞」表彰式

【日時】 2024年9月18日(水)10:30 ~12:00

【場所】 東京ビッグサイト 東6ホール、Japan Robot Week内メインステージ



【共催者(幹事)挨拶】日本機械工業連合会 東原会長



【受賞者代表挨拶】ファナック 山口氏



【総評】審査特別委員会 川村委員長



経済産業大臣賞表彰の様子

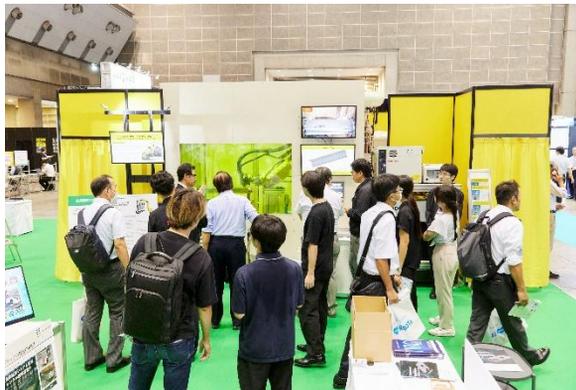


【受賞者全体記念撮影】



# 合同展示

■受賞ロボット合同展示 9月18日(水)～20日(金)10:00～17:00



ファナック 『M-800』



Preferred Robotics 『カチャカ』



宇宙航空研究開発機構/中央大学/東京農工大学/  
同社社大学/タカラトミー/ソニーグループ  
『超小型月面探査ローバLEV-1&LEV-2』



NEWGREEN 『アイガモロボ』



建ロボテック 『トモロボ』



合同展示風景



## 「第11回 ロボット大賞」応募者アンケート

### ■ 応募者アンケート

回答数:全85件 ※応募用紙より

### ロボット大賞募集をどこで知りましたか(複数選択可)

	件数
ロボット大賞Webサイト	44
リーフレット・ポスター	10
受賞者合同展示	5
主催者Webサイト	5
所属団体(工業会・協会など)からの紹介	15
主催者からのDM	19

その他(自由記述)の回答結果
・社内連絡(2件)
・事務局からの連絡:ノミネート委員会推薦案件(4件)
・マーケティング業務の中で認識(1件)
・国交省HPを見た職員からの業務連絡(1件)
・建通新聞(1件)
・日刊工業新聞(1件)



# 「第11回 ロボット大賞」 応募者アンケート

## ■ 応募者アンケート

回答数: 全101件 ※エントリーより

質問①: 今回の応募に際し、「ロボット大賞」に対して期待することは何でしょうか。  
最も当てはまるものに○をおつけください(複数回答可)。

	件数	(前回結果)
1. ユーザーへのPR	75	86
2. マスコミ(テレビ・新聞等)に取り上げられること	58	66
3. 第11回 ロボット大賞をはじめとする各賞受賞によるロボットの認知度向上	62	81
4. 各種展示会での合同展示による広報効果	42	40
5. 経済産業省等の公共機関への知名度上昇	60	55
6. その他(自由記述)	6	3

## 6. その他回答結果

- ・弊社商材の正当かの評価をいただく機会として
- ・製法認知度向上による活用範囲の拡大と各種装置の開発メリットの向上
- ・AI、ロボットエンジニア育成の啓もう活動
- ・捕獲中心である現状の獣害対策の先を見据え、ゾーニング(生活圏の線引き)の徹底による継続的な獣害対策の認知向上
- ・社会実装
- ・業界全体の問題解決に向けた取り組み

質問②: 今後の「ロボット大賞」のあり方などについてご意見をお聞かせください。

### ア)PR・認知度向上

- ・産業用ロボット以外のロボットの可能性を広げていく潮流が広がればと思います。
- ・非常によい取り組みだと思うので、アニメや漫画を使う等して、SNS等で子供たちにPRして注目度をあげる事で、世の中で活躍するロボットたちがいるんだという感じで次世代のモノづくりの手を繋いでいけるようにしたら良いと感じます。
- ・もっと大々的に報道されてもよいと思う
- ・国内における「ロボット大賞」の認知度向上と、受賞対象のさらなるPRをお願い致します。

### イ)今後の取り組みへの期待

- ・成長産業と言われつつも、市場全体として現段階ではまだまだ開発・試作のフェーズにあり、量産市場として成熟しているとは思えないため、大賞受賞したアイテムや企業様が実際にビジネスとして各々のマーケットで成功するところまで、いわゆる受賞後の成長を把握出来る環境造りにも期待したい。
- ・実用化への具体的な支援等



## 「第11回 ロボット大賞」 応募者アンケート

質問②： 今後の「ロボット大賞」のあり方などについてご意見をお聞かせください。

### ウ) 応募対象

・ロボットはさまざまな分野で活躍していますので、ロボット大賞も多様なカテゴリーを設けることが重要。ロボット大賞を開催し、優れたロボット技術の普及と発展を支援することを望みます

・ロボットはさまざまな分野で活躍していますので、ロボット大賞も多様なカテゴリーを設けることを望みます。

・①日本の産業での実用化や貢献度の視点だけでなく、日本のロボット技術を世界売り込む視点も強くしてはいかがでしょうか？（世界に向けてアピールする企画をしたり、世界と比べて日本らしい・ユニークな技術を表彰する部門）

②ゲームチェンジ部門のようなものを追加してはどうでしょう？ 様々な業界でこれまでは全く異なる技術で、業界に変革を与える可能性がある技術のための部門です。米中と比べ日本発ではあまりゲームチェンジに結びつくような技術は育ちにくいと言われていますが、このような大きな変革を起こす可能性をもったシーズ技術に賞を与えることで、企業間連携を促したり、投資家からの資金を集めたりに繋がり、社会実装を後押しできると思います。

①②を組み合わせると、ロボット大賞が新しいシーズ技術を育てるポジションを国内外から得ることができるはずで、特に②は世の中にはないものなので、実績で技術进行评估するのではなく、技術と市場の創造性で評価しなければいけないので、技術が見極められて、市場創造のできる審査が必要になるところが難しいですが、そこはロボット技術に優れた日本の賞レースだから実現できるのではないかと思いました。詳細説明が必要であればいつでもご協力致します。

### エ) 表彰位

・ハードウェアだけでなく、ロボットを有効に活用するサービスやビジネスモデルについても対象にして欲しい。

・開催の頻度を増やし、受賞の機会を増やして頂けると、ベンチャー企業にとって非常に助かります。

### オ) 評価

・こういったロボットに対する名誉は大変ありがたいです。

日本における少子高齢化（働く人口の減少）の課題を解決するにあたり、ロボットによる省人化・自動化は今後（現在）の日本経済を支える重要なテーマになってくると考えております。まだまだロボットの採用・導入に際しては、一歩踏み切れない企業様が多いように見受けられます。このようなロボット大賞を開催し、広くロボットの情報を展開することにより、ロボットがより身近に、採用の垣根が少しでも低くなり、日本経済を支えていくひとつとなれば良いと考えております。



質問②: 今後の「ロボット大賞」のあり方などについてご意見をお聞かせください。

### カ)その他 意見・感想

- ・ユーザー企業としてロボット技術の高度化や低価格化を切に望んでおり、特に自動化が遅れている三品産業の技術開発促進につながることを期待しています。
- ・是非、続けてほしいです。Wordではなく、Webのフォーマットでの応募。
- ・企業等の参加が多いですが、個人の出品を期待します。
- ・特にはございません



# 制作物

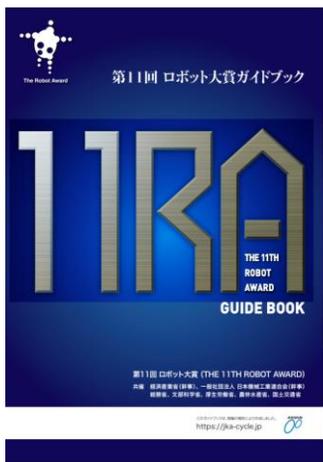
## ■募集用リーフレット・ポスター

募集用ポスター(A1カラー、200部)を作成し、関係企業・団体へ配布した。



## ■公式ガイドブック

受賞ロボットの特徴をまとめたガイドブック(A4カラー、7,000部)を作成した。



## ■公式ガイドブック

受賞ロボットの特徴をまとめたガイドブック(A4カラー、7,000部)を作成した。



## ■ 募集開始の告知

### ①メール配信

- ・協力・関係団体の会員
- ・国際ロボット展他 展示会来場者(約17万件)

### ②プレスリリース

#### 「第11回ロボット大賞」の募集を開始します！

経済産業省及び一般社団法人日本機械工業連合会は、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省及び国土交通省との共催により、本日より、「第11回ロボット大賞」の募集を開始します。

#### 1. 概要

「ロボット大賞」は、我が国のロボット技術の発展や社会実装を促進することを目的として、ロボットの先進的な活用や研究開発、人材育成といった様々な分野において、優れた取組を実施した企業等を表彰する制度です。2006年度に第1回を開催し、2008年度からは隔年での開催を続け、今回が11回目の開催となります。

#### 2. 応募分野・表彰位等

「ものづくり」、「サービス」、「ICT利活用」、「介護・医療・健康」、「インフラ・災害対応・建設」、「農林水産業・食品産業」の計6分野において、「ビジネス・社会実装」、「ロボット応用システム」等の計7部門を表彰対象に、取組を募集します。応募案件については、一次審査（書類審査）及び二次審査（現地調査、プレゼンテーション審査）を経て、本年秋頃に、①各大賞、②中小企業庁長官賞(中小・ベンチャー企業賞)、③日本機械工業連合会会長賞、④優秀賞、⑤審査員特別賞の受賞対象を決定します。応募方法の詳細については、[公式ウェブサイト](#)を御覧ください。

#### 3. 今後のスケジュール

- ・2月19日(月) 応募受付開始
- ・4月12日(金) 応募締切
- ・8月上旬 各賞受賞案件の決定・公表
- ・9月18日(水) 表彰式

#### 4. 関連リンク

[「第11回ロボット大賞」募集チラシ](#)

#### 参考：第10回ロボット大賞 経済産業大臣賞

名称：モバイルロボットLD/HDシリーズ

受賞者：オムロン株式会社



#### お問合せ先

製造産業局 産業機械課 ロボット政策室  
電話：03-3501-1511（内線）3819～3820

最終更新日：2024年3月18日



# 広報および報道

## ■ 募集開始の告知

### ② プレスリリース

総務省の紹介 広報・報道 政策 組織案内 所管法令 予算・決算 申請・手続 政策評価

総務省の紹介 > 広報・報道 > 報道資料 > 「第11回ロボット大賞」の募集開始

報道資料  
令和6年2月19日

「第11回ロボット大賞」の募集開始

総務省は、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省とともに、本日から「第11回ロボット大賞」の募集を開始します。

1 概要  
「ロボット大賞」は、ロボット技術の発展と事業化を促進、社会に役立つロボットに対する認知度を高めることなどを目的として、将来の市場創出への貢献度や期待度が高いと考えられる優れたロボット等を表彰するものです。平成10年から実施しており、本年で11回となります。  
「第11回ロボット大賞」では、高度な技術力や材料活用・活用を含む7部門、6分野を設定し、総務大臣賞を含む6つの大賞賞状の授与を行います。

総務省

国土交通省

ホーム > 国土交通省について > 報道・広報 > 政策・法令・予算 > 白書・オープンデータ > お問い合わせ・申請

報道・広報

ホーム > 報道・広報 > 報道発表資料 > 「第11回ロボット大賞」の募集を開始  
～ 未来を拓くロボット技術の積極的な応募をお待ちしています ～

「第11回ロボット大賞」の募集を開始！  
～ 未来を拓くロボット技術の積極的な応募をお待ちしています ～

令和6年2月19日

国土交通省では、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、（一社）日本機械工業連合会との連携により、「第11回ロボット大賞」の募集を本日より開始します。

■ 概要  
「ロボット大賞」は、我が国のロボット技術の革新と用途拡大及び需要の喚起を促すため、活躍したロボットの中から市場創出への貢献度や期待度が高いロボット、ロボットに関連するビジネス・社会実装、要素技術、研究開発及び人材育成の取組等を実施した企業等を表彰します。

国土交通省

JMFA 一般社団法人日本機械工業連合会

ロボット大賞

「第11回ロボット大賞」エントリーを開始しました！

日機連では、経済産業省、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省との共催により、「第11回ロボット大賞」を実施して、ロボット、応用システム、ロボットビジネス、及びロボット人材育成等の普及拡大を支援し、貢献してまいりたいと考えております。応募期間は4月12日(金)までとなっております。この機会に、是非ご応募のご検討をお願い致します。

日本機械工業連合会

農業食料工学会

「第11回ロボット大賞」の募集を開始

主催：（一社）日本機械工業連合会  
共催：経済産業省、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

1. 概要  
「ロボット大賞」では、我が国のロボット技術の革新と用途拡大及び需要の喚起を促すため、市場創出への貢献度や期待度が高いロボットやロボットに関連するビジネス・社会実装、要素技術、研究開発及び人材育成の取組等を実施した企業等が表彰されます。

2. 募集対象  
第11回ロボット大賞」では、次の6分野、7部門を表彰対象として募集します。

農業食料工学会

「第11回ロボット大賞」の募集（経済産業省、JMFA、他 締切：R6.4.12）

印刷ページ表示 更新日：2024年2月27日更新

📧 ポスト 📱 いいね! 📄 シェアする 📄 LINEで読む

その他公募情報

実施機関	経済産業省（幹事）、一般社団法人日本機械工業連合会（JMFA）（幹事）、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省
公募期間	あり 公募開始：2024年2月19日～ 公募終了：2024年4月12日
関連URL	関連URLを開く

概要

「ロボット大賞」は我が国のロボット技術の発展やロボット活用の拡大等を促すため特に優れたロボットや部品・ソフトウェア、それらの先進的な活用や研究開発、人材育成の取組などを表彰する制度です。

石川県産業創出支援機構ISICO

農林水産省

逆引き事典から探す 組織別から探す キーワードから探す Google 検索

会見・報道・広報 政策情報 統計情報 申請・お問い合わせ 農林水産省について

ホーム > 会見・報道・広報 > 報道発表資料 > 第11回ロボット大賞の受賞ロボットを決定しました

プレスリリース

第11回ロボット大賞の受賞ロボットを決定しました

令和6年9月11日 農林水産省

農林水産省は、一般社団法人日本機械工業連合会、経済産業省その他関係省庁との共催により「ロボット大賞」を実施しています。この度、「第11回ロボット大賞」において、株式会社NEWGREENの「水田に浮かべる自動除草ロボット『アイガモロボ』」が農林水産大臣賞を受賞しました。

農林水産省



# 募集中の報道

## ③新聞、雑誌／Web・電子メディア 日刊工業新聞、ロボットスタート、Ledge.ai、他

### ロボ大賞 応募受け付け開始

経済産業省と日本機械工業連合会（日機連）などは「第11回ロボット大賞」の応募受付を始めた。おおむね3年以内に国内で利用されたロボットや関連するビジネスモデル、要素技術などを対象とする。将来の市場創出への貢献度や期待が高いものを表彰し、需要喚起や技術革新、用途拡大などにつなげる。

総務省、文部科学省などとの共催。募集期間は4月12日までで、公式ウェブサイトから応募する。書類審査や現地調査、プレゼンテーションなどを経て、8月上旬に受賞案件を決定。9月18日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で表彰式を開く予定だ。

経産省などを来月12日まで

日刊工業新聞 2024年3月21日(木)



こちらは2024年3月31日までの過去ニュースがご覧いただける日本商工会議所の公式サイトです。

TOP > 日本商工会議所 > ニュースライブラリ > エンジンロボ大賞 > 「第11回ロボット大賞」の募集を開始（経産省など）

### 「第11回ロボット大賞」の募集を開始（経産省など）

2024年3月21日

経済産業省と一般社団法人日本機械工業連合会、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省では、「第11回ロボット大賞」の募集を開始した。ロボット大賞は、ロボット技術の革新と用途拡大や需要喚起に向け、活躍しているロボットの中から市場創出への貢献度や期待度が高いロボット、関連ビジネス、社会実装、要素技術、研究開発、人材育成などにおいて優れた取り組みを実施した企業などを表彰する制度。「農林水産業・食品産業」「社会インフラ・災害対応・消防」「介護・医療・健康」「ICT活用」「サービス」「ものづくり」の6分野において、「ビジネス・社会実装」「ロボット応用システム」「要素技術」「高度ICT基盤技術」などの7部門で募集し、各大臣賞、中小・ベンチャー企業賞（中小企業庁長官賞）などを決定する。応募締め切りは4月12日。

詳細は、<https://www.robotaward.jp/> を参照。

日本商工会議所



J-Net21 中小企業経営者の課題解決をサポートする  
最新の支援情報や事例をご紹介します。

ホーム 課題別情報 支援情報ヘッドライン ビジネスQ&A 起業・創業 経営・事例 J-Net21とは

ホーム > 中小企業経営 > 「第11回ロボット大賞」募集：総務・文科など6省

### イベント

#### 「第11回ロボット大賞」募集：総務・文科など6省

商品情報・市場情報

2024年 3月 19日

総務、文部科学、厚生労働、農林水産、経済産業、国土交通の6省は「第11回ロボット大賞」の募集を始めた。7部門6分野を設定し、6つの大賞賞状などを授与する。応募の締め切りは4月12日。

ロボット技術の発展と事業化を促進し、社会に役立つロボットに対する認知度を高めることなどを目的に2009年から実施されている。ビジネス・社会実装、ロボット応用システム、研究開発、人材育成など7部門と、ものづくり、サービス、介護・医療、社会インフラ・災害対応など6分野を設定。おおむね3年以内に国内で活躍したロボットの中から部門・分野に属しているものを審査する。

各大臣賞のほか、中小企業・ベンチャー企業からの応募のうち、特に優秀なロボットに対しては中小企業庁長官賞が贈られる。表彰式は9月18日に実施される予定。受賞ロボットは9月18日～20日に東京ビッグサイトで開催予定の「Japan Robot Week 2022」の会場に展示される。

J-Net21

## 新聞、雑誌／Web・電子メディア

日刊工業新聞、ロボットスタート、PRTIMES、BUILT他

### 経産大臣賞にファナック

#### 第11回ロボット大賞

経済産業省と日本機械工業連合会（白機連）は11日、優れたロボット技術・製品をたたえる第11回「ロボット大賞」の受賞者を発表した。経済産業大臣賞にはファナックの6軸多関節ロボット「M-800」を選んだ。可搬重量60kgながら、高剛性が重量の約0.1倍以下の絶対精度を実現。高機能に加え、省スペース・低コスト化への貢献が評価された。

ロボット大賞は隔年で開催している。今回は計85件の応募があった。表彰式は18日10時半から東京・有明の東京ビッグサイトで同日開幕するロボット専門展「ジャパンロボットウィーク2024（会場）」

内々、経産大臣賞以外の主要各賞は次の通り。

- ▽総務大臣賞Ⅱ「カチャカ」（フリアドロロボティクス）▽文部科学大臣賞Ⅱ「超小型型面探索ロボットV1&LIVE2」（宇宙航空研究開発機構）JAXAなど▽農林水産大臣賞Ⅱ「水田に浮かべる移動草刈ロボットライオンボ」（ニトリグリーン）▽国土交通大臣賞Ⅱ「鉄筋結束ロボット「トモロボ」」（建ロボテック）▽中小・ベンチャー企業賞（中小企業庁長官賞）Ⅱ「KUMADE FORK」（KUMADE FORK）ECSシリーズ（ハイモテック）▽日本機械工業連合会会長賞Ⅱ「つくばチャレンジ」
- ▽同Ⅱ「自律走行搬送ロボット」フジエレクトロニクス（フジエレクトロニクス）

日刊工業新聞 2024年9月12日（木）

### 電波新聞

#### 経産大臣賞にファナック「M-800」 第11回ロボット大賞、85件の中から15賞決まる



ロボット技術の発展と社会実装促進を目的に、優れた技術や取り組みを表彰する「第11回ロボット大賞」（経済産業省、日本機械工業連合会など共催）の審査が行われ、85件の応募の中から、経済産業大臣賞にファナックの「世界最小の大型加工機 高精度本格加工ロボットM-800」が選ばれた。

電波新聞 2024年10月3日（木）

### 第11回ロボット大賞表彰式

#### ファナックなど15件に

経済産業省、日本機械工業連合会（日機）は18日、第11回ロボット大賞の表彰式を東京ビッグサ イト（東京都江東区）で開いた。経済産業大臣賞に選ばれたファナックの6軸多関節ロボット「M-800」を機連会長賞、優秀賞、審査員特別賞の計15件を表彰した。

（9面に連続記事）

主催者発表は「石井拓経産副官は「石手不足が深刻化する中、自動化、省力化の促進は社会課題解決の切り札。多岐にわたる分野で革新的な技術が誕生し、ロボットの活動を大愛心することを感じたい」と述べた。

さらに日機連の東原昭昭会長は「人工知能（AI）に挑むべきの従業員と喜びを分かち合いたい。さらなる研究開発を進め、日本の製造業の競争力向上に貢献したい」と述べた。

表彰式では、ファナックの山口賢治社長兼経営責任者は「開発者（CEO）は『開業』に挑むべきの従業員と喜びを分かち合いたい。さらなる研究開発を進め、日本の製造業の競争力向上に貢献したい」と述べた。

日刊工業新聞 2024年9月19日（木）

### DRONE

#### 第11回ロボット大賞、建ロボテック製「鉄筋結束ロボットトモロボ」に決定！

国土交通省は、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、（一社）日本機械工業連合会との共催により「第11回ロボット大賞」を実施し、各賞の表彰対象を決定



「ロボット大賞」は、日本のロボット技術の発展や社会実装を促進することを目的として、ロボットの先進的な活用や研究開発、人材育成といった様々な分野において、優れた技術を実践した企業等を表彰する制度だ。

DRONE 2024年9月15日（日）

# 受賞者決定の報道

## 新聞、雑誌／Web・電子メディア 日刊工業新聞、ロボットスタート、PRTIMES、BUILT他

**第11回ロボット大賞 クボタのアグリロボコンバインが優秀賞に**



2024年9月19日

株式会社クボタが開発し、販売する無人ロボットコンバイン「アグリロボコンバイン DRH1200A-A」が、第11回ロボット大賞の優秀賞に輝いた。先進技術と制御技術によって安全性を確保し、農作業に初めて貢献に成功したことが評価された。

**ロボット技術の発展や  
社会実装の促進を目指す**

ロボット大賞は、ロボット技術の発展や社会でのロボットの活用を促進するため、優れたロボットを表彰する研究、人材育成などを目的とする制度で、研究者と企業間の連携を促し、研究開発、実用化の促進、人材育成、産学連携の推進に寄与している。2023年度からは協賛の企業も加わり、4年連続で賞状を授与する。

今年度は協賛の企業の中から、第11回ロボット大賞優秀賞を受賞する優秀なロボットにより、表彰が決定した。今年度は優秀賞が1台、中村製作所賞賞（中村ベンチャー企業賞）、日本機械工業協会賞、農協特別賞、分科ごとの優秀賞がある。

北野氏は、優秀賞受賞は「今後の、全分野」、優秀賞は「半ばに達した」として喜びを語り、2024年度は「ロボット技術の発展や社会でのロボットの活用を促進するため、優れたロボットを表彰する研究、人材育成などを目的とする制度で、研究者と企業間の連携を促し、研究開発、実用化の促進、人材育成、産学連携の推進に寄与している。2023年度からは協賛の企業も加わり、4年連続で賞状を授与する。」と述べている。

**業界初の無人化が  
高く評価される**

表彰式

第11回ロボット大賞の授賞式は、9月19日（木）に東京都千代田区有明の日本農業新聞本社で開催された。優秀賞を受賞したクボタのアグリロボコンバイン「アグリロボコンバイン DRH1200A-A（アグリロボコンバイン）」は、最先端の技術と制御によって、業界初の無人化を実現したことが高く評価された。授賞式には協賛の企業も参加し、会場ではロボット展示も行われた。2部制の授賞式は、授賞式と表彰式に分けて行われ、授賞式では賞状と賞品が授与された。授賞式では、協賛の企業も参加し、会場ではロボット展示も行われた。

ロボット大賞の趣意では、これまで注目度が低かったロボットコンバインの無人化に注力し、実用化を促すことが目的である。先進技術と制御技術によって、安全性を確保し、農作業に初めて貢献に成功したことが評価された。また、入賞している企業も表彰されている。協賛の企業も参加し、会場ではロボット展示も行われた。

**は場の約9割を  
無人自動運転で収穫可能に**



アグリジャーナル 2024年10月7日(月)

2024年9月19日 掲載  
**世界初の自動水田除草ロボット「アイガモロボ」が第11回ロボット大賞「農林水産大臣賞」を受賞**

ニューフェイス / フリスリース



2024年9月18日、農林水産大臣賞を受賞した。第11回となる今回は全分野の応募があり、審査特別委員会より最高の表彰対象が決定した。農林水産大臣賞は全分野のうち研究者が行う企業への表彰から最も優秀であると認められるロボット等に授与されるもので、（第11回ロボット大賞受賞一覧）

9月18日に東京ビッグサイトで開催された表彰式では、当社の取締役社長 中村健也、取締役アイガモロボ共同開発者 和田洋一が出席し、農林水産大臣 鈴木康和 様より表彰状の授与を受けた。授賞式での展示ブースには、農林水産大臣 鈴木康和 様、国土交通大臣 梶野幸之助 様、総務大臣 萩生田光一 様、文部科学大臣 萩原 弘 様をはじめ多くの方が来場し、「有機農業の推進、および農業者の所得向上が期待できる」「思ったよりも小さくて軽いため、中山間地でも活躍が期待でき、農業者の負担も少ない」等とコメントを頂戴しました。

アイガモロボは東京ビッグサイトで開催されたJapan Robot Week 2024内「ロボット大賞特別展示」で見ることが出来ます。

**ロボット大賞でアイガモロボが評価されたポイント**

- 世界初の自動水田除草ロボットを実現化
- 2023年には実用500台を発売し、全国で導入実績
- 世界各都府県からの要望を受け、中国、ベトナム、アメリカ、カナダなどで実証実験中
- ロボットの発売のみならず、生産された有機物の回収も提供
- 収穫を拡大した有機物を回収済みで、利便性も高く評価



展示ブースでアイガモロボを持ち上げる農林水産大臣 鈴木康和 様

日本農業新聞 2024年9月19日(木)

**アイガモロボが第11回ロボット大賞「農林水産大臣賞」を受賞 井開農機** 一輪へ機から年間500台販売 NEWGREEN

2024年9月19日

株式会社NEWGREENが開発・製造し、井開農機株式会社が販売する「アイガモロボ」が第11回ロボット大賞「農林水産大臣賞」を受賞した。9月18日にJapan Robot Week 2024会場内で開催された表彰式には中村健太郎社長が登壇し、鈴木農林水産大臣から賞状と記念品を受け取った。



農林水産大臣賞  
水田に浮かべる自動除草ロボット「アイガモロボ」

株式会社NEWGREEN

農機具の種子

アイガモロボは、化石燃料や化学薬業、人の手を要せずに自動で実行する水田除草ロボット。G7農業大臣会合で展示された他、中国やベトナムでの実証実験が開始されたなど、国内外から注目を集めており、今後10年間で数万台の販売を計画している。

受賞については、自動水田除草ロボットを世界で初めて実用化したことや、2023年には生産した限定500台を井開農機から販売し完売するだけでなく、求年には改良を加えた変種版が完売予定であり、さらなる普及も期待できること、また、ロボットの販売と同様に、生産された有機物を買い取るビジネスモデルも展開し実績を出していることが高く評価された。

ロボット大賞は、ロボット技術の発展やロボット技術の拡大等を促すため、特に優れたロボットや部品・ソフトウェア、それらの実証的な活用や研究開発、人材育成の推進などを表彰する制度。過去には、ソフトバンクロボティクス社の「Pepper」やナールワークスの「完全自動航行のドローン」による祭りの精進農業」などが受賞している。



アイガモロボと記念撮影

農業協同組合新聞 2024年9月19日(木)